

# トビウオ通信 (R2 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成31年(2019年)の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、平成31年(1~12月)の島根県漁業の動向を取りまとめました(海面漁業・漁船漁業のみ)。

### 全体 … 漁獲量は平年を下回る・生産額は平年並み

平成31年の島根県(属人)の総漁獲量は8万トン(平年比67%)、総生産額は182億円(同92%)でした(表1、図1、2)。前年(平成30年)と比べると、総漁獲量で3万3千トンの減少、総生産額では16億円の減少となりました。総漁獲量の減少原因はまき網漁業で漁獲されるマアジ、サバ類、マイワシの不漁と考えられます。

漁業種類別でみると、漁獲量ではまき網が全体の75%を占め、生産額ではまき網が全体の43%、定置網が12%、沖合底びき網2そう曳きが10%、小型底びき網1種が9%となりました。

魚種別でみると、漁獲量の上位5種はマアジ(1万8千トン、平年比62%)、ウルメイワシ(1万5千トン、同391%)、サバ類(1万3千トン、同53%)、ブリ(1万トン、同78%)、カタクチイワシ(3千トン、同58%)となりました(図3)。

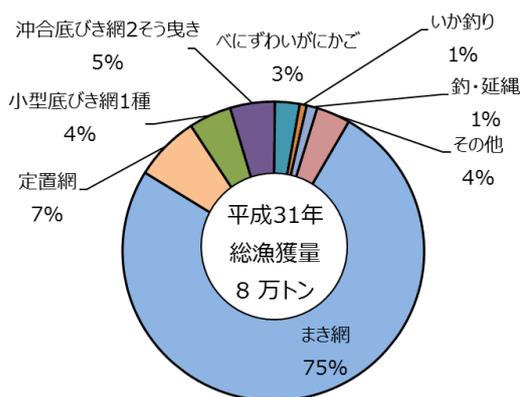


図1 平成31年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

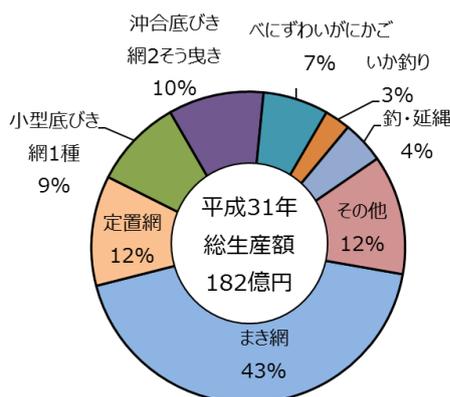


図2 平成31年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

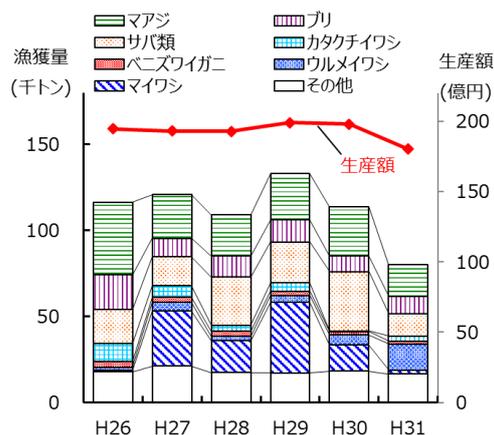


図3 島根県の総漁獲量・総生産額の推移

#### <文中の語句説明>

- ☞ 平成31年の漁獲量・生産額および平年比は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網の魚種別統計は実質的に県外を根拠としている1経営体を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は平成30年の数値、「平年」は過去5年(平成26年~30年)、沖合底びき網漁業のみ過去10年(平成21年~30年)の平均値を指します。
- ☞ 平年との比較は、平年比が120%より高い場合は「平年を上回る」、平年比80~120%は「平年並み」、平年比が80%より低い場合は「平年を下回る」としています。

## まき網漁業 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量は平年を下回る・生産額は平年並み

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。平成 31 年のまき網漁業全体の漁獲量は 6 万トン、生産額は 78 億円でした。ウルメイワシは豊漁でしたが、漁獲の主体であるマアジ、サバ類、マイワシの不漁によって漁獲量は減少しました。

まき網漁業のうち大半を占める中型まき網の漁獲量は 5 万 2 千トン（平年比 62%）、生産額は 65 億 6 千万円（同 93%）でした（図 4）。1 船団あたりの漁獲量は 5 千トン（平年比 65%）で平年を下回り、生産額は 6 億円（同 100%）で平年並みでした。

中型まき網漁業について魚種別で見ると、漁獲量の上位 5 種はマアジ（1 万 5 千トン、平年比 61%）、ウルメイワシ（1 万 5 千トン、同 398%）、サバ（8 千 5 百トン、同 44%）、ブリ（6 千 9 百トン、同 77%）、カタクチイワシ（2 千 7 百トン、同 55%）となりました。

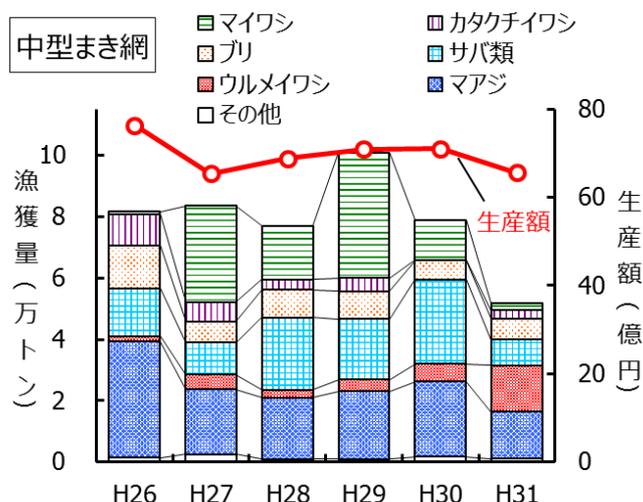


図 4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

## 沖合底びき網漁業(2そう曳き) ……1 船団あたりの漁獲量・生産額はともに平年並み

沖合底びき網漁業（2そう曳き）は 2 隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。平成 31 年の漁獲量は 3 千 8 百トン（平年比 84%）、生産額は 18 億円（同 83%）でした（図 5）。平成 31 年は年度途中で操業統数の減少があり漁獲量、金額ともに減少しました。1 船団あたりの漁獲量は 640 トン（同 104%）、生産額は 3 億円（同 104%）でともに平年並みでした。

魚種別では漁獲量が多い順に、キダイ（平年比 139%）、アカムツ（同 164%）、ムシガレイ（同 63%）、アナゴ・ハモ類（同 99%）、ソウハチ（同 90%）となりました。

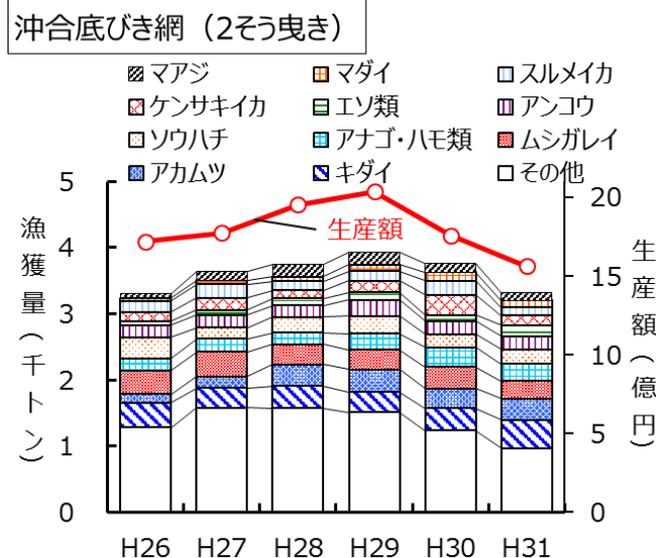


図 5 沖合底びき網漁業 (2そう曳き) による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）

## 小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる漁法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。平成31年の漁獲量は3千6百トン（平年比90%）で、生産額は16億9千万円（同95%）でした（図6）。1隻あたりで見ると漁獲量は88トン（平年比95%）、生産額は4千百万円（同99%）でともに平年並みでした。

魚種別では漁獲量が多い順に、ソウハチ（平年比84%）、アンコウ（同149%）、アナゴ・ハモ類（同148%）、アカガレイ（同110%）、ニギス（同74%）となりました（図7）。

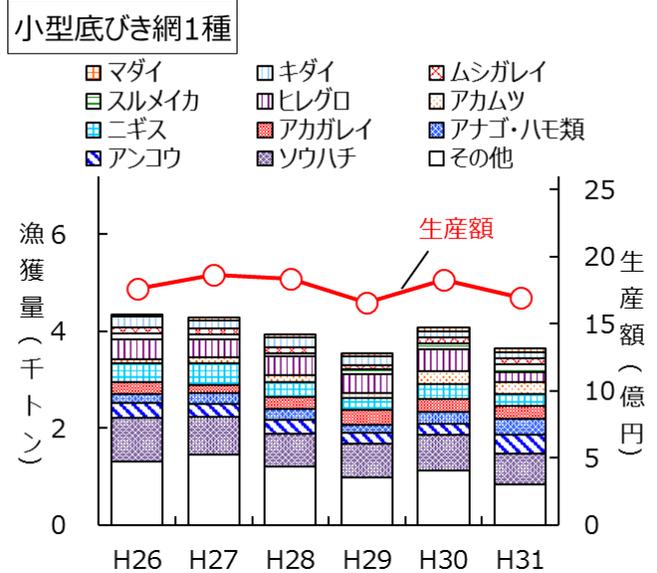


図6 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移

## 定置網漁業 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を張り、網に入り込んだものを漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などが漁獲対象となります。平成31年の漁獲量は5千6百トン（平年比90%）、生産額は21億円（同99%）でともに平年並みでした（図7）。また、大型定置網の1ヶ統あたりの漁獲量は276トン（同96%）、生産額は9千5百万円（同103%）でともに平年並みでした。

出雲地区の漁獲量は3千9百トン（平年比103%）で平年並み、石見地区は770トン（同76%）、隠岐地区は890トン（同65%）でいずれも平年を下回りました。

魚種別の動向は、出雲地区の上位3種はブリ（平年比108%）、ヒラマサ（同403%）、サワラ（同81%）となりました。石見地区ではマアジ（平年比72%）、ブリ（同108%）、サバ類（同55%）となりました。隠岐地区ではマアジ（平年比52%）、ブリ（同67%）、ヒラマサ（同52%）となりました。

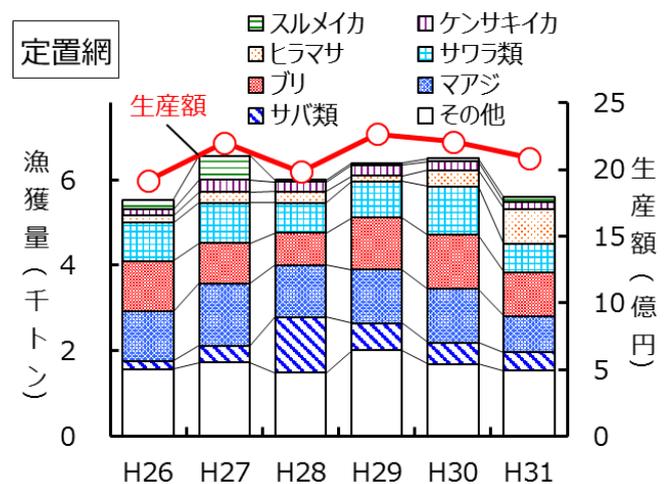


図7 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移

## 釣り・延縄 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

釣り・延縄の平成31年の漁獲量は920トン（平年比84%）、生産額は8億円（同86%）でともに平年並みでした（図8）。

出雲地区の漁獲量は397トン（平年比77%）で平年を下回り、石見地区は317トン（同93%）で平年並み、隠岐地区は204トン（同87%）で平年並みでした。

魚種別の動向は、出雲地区の上位3種はブリ（平年比53%）、サワラ類（同96%）、アマダイ（同107%）となりました。石見地区ではヒラマサ（平年比162%）、ブリ（同83%）、アマダイ（同142%）となりました。隠岐地区ではブリ（平年比95%）、カサゴ・メバル類（同88%）、クロマグロ（同145%）となりました。近年、漁獲量が減少傾向にあるのは漁業者の減少が原因と考えられます。

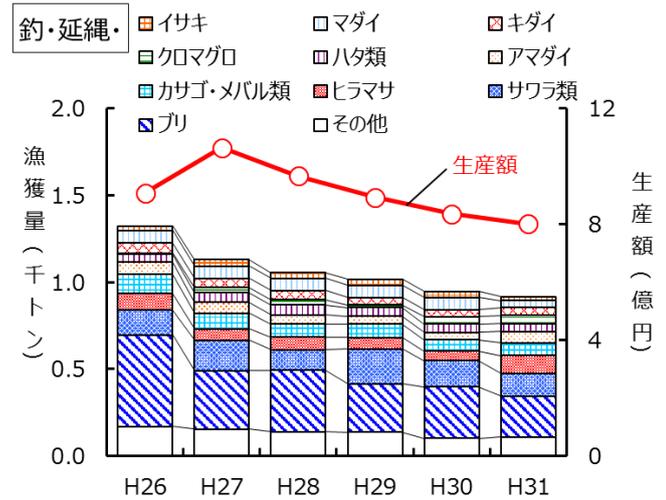


図8 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移

## イカ釣り …… ケンサキイカは平年を下回る・スルメイカは平年を上回る

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。

平成31年の漁獲量は595トン（平年比81%）、生産額は4億9千万円（同79%）で平年を下回りました（図9）。魚種別の動向は、スルメイカ（平年比171%）、ケンサキイカ（同42%）、ヤリイカ（同66%）となりました。春から夏にかけてのケンサキイカの漁獲量は平年をやや下回る傾向で推移しましたが、秋の漁獲量は九州地方から日本海の広範囲で記録的な不漁となりました。

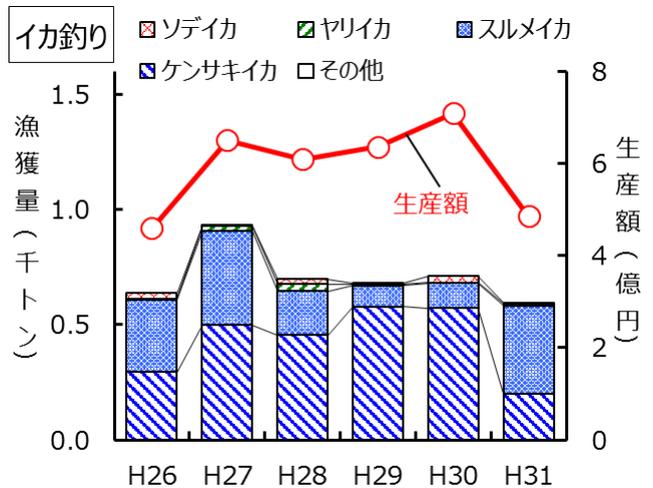


図9 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。  
 ( <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> )

表1 平成31年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	79,732	67%	70%	18,244	92%	91%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	4,576	76%	65%	1,022	110%	99%	1,701	85%	○	364	123%	◎
	隠岐	47,325	60%	66%	5,542	91%	91%	5,916	62%	▲	693	94%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	3,826	84%	87%	1,797	83%	88%	640	104%	○	305	104%	○
小型底びき網1種	石見	3,524	91%	90%	1,611	95%	93%	90	95%	○	41	99%	○
定置網 ※※	出雲	3,929	103%	100%	1,551	106%	103%	284	110%	○	112	112%	○
	石見	768	76%	67%	232	80%	73%	182	78%	▲	52	80%	▲
	隠岐	891	65%	63%	303	84%	79%	168	57%	▲	64	76%	▲
釣り・延縄	出雲	397	77%	104%	297	88%	107%	—	—	—	—	—	—
	石見	317	93%	96%	265	94%	100%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	204	87%	87%	240	78%	82%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	159	50%	60%	176	61%	60%	—	—	—	—	—	—
	石見	76	40%	37%	100	54%	45%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	361	160%	150%	210	148%	107%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内全漁協・全経営体が対象。

平年比：過去5年(H26～H30年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去10年(H21～30年) 漁模様：◎平年を上回る、○平年並み、▲平年を下回る

※※定置網の1ヶ統あたり漁獲量・生産額は集計対象期間(H26～H31年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。